

1 昭和30年頃の犬山駅。開業当初は現在よりも西側に位置していたという 2 旧犬山市役所。鉄筋コンクリート造りの3階建てで、業務開始は昭和30年9月5日からだった 3 五条川をプール代わりに遊ぶ子どもたち（昭和30年頃）。吉野さんが経営する「犬山ローレイ麦酒館」の裏手には、かつて成海の清水（羽黒の清水）と呼ばれた湧水による小川が流れていて、ここでも地元の子どもたちが水遊びを楽しんでいたようだ



巻頭特集 犬山市制六十周年

誕生当時を

振り返りながら、

明日の

犬山を思う

今年4月、犬山市は市制60周年を迎えます。市ではこの記念の年を市民と協働で盛り上げ、祝おうと、さまざまな事業を実施します。そんな祝賀ムードは、犬山市が誕生した60年前も同じでした。祝賀会が開かれ、市制施行を祝う市民の姿が多く見られました。

待望の犬山市が誕生 市制施行を祝う市民

犬山市の前身である犬山町、城東村、羽黒村、栗田村、池野村の1町4村の長と議会議員によって「市制促進委員会」が組織されたのは、昭和28年

12月のことでした。合併に向けて討議を重ねるだけでなく、愛知県内の各市をはじめ、岐阜県の関市や多治見市の視察なども行われました。住民の意見聴取で市制施行に賛成の声が多数を占めたことから、合併の準備を進めるための「犬

このように多くの市民が祝ったという事は、それだけ市制施行に関して期待を寄せていた表れだったと思われる。翌年3月に行われた市議会議員選挙（条例により定数30人と定められた）の投票率は約94%で、市政への関心の高さを物語っています。

企業誘致と並行して 商工観光事業を推進

市制施行当初、市庁舎は犬山町役場を使用しており、市議会は犬山北小学校の講堂や中央公民館を議場として開会されていました。市庁舎の建設が急がれ、昭和30年5月12日、名鉄「犬山」駅近くに完成。そして現在、新市庁舎が平成21年、その跡地に建てられて、市の玄関口である駅周辺も整備されました。

市では積極的な工場や事業所の誘致を展開していきます。広報「いぬやま」の昭和35年1月15日号には「工場誘致相次ぐ」と紹介されました。さらなる工業振興を図るために昭和39年から2年がかりで、栗田・羽黒地区に工業団地が造成されます。団地の分譲後は、関連企業が周囲に進出し、道路が整備され、住宅団地が建てられました。吉野さんはこの60年を振り返って、地域にとって一番の大きな出来事として工場団地の建設だと話します。羽黒地区は古くから良質な竹の産地で、各所に大きな竹林がありました。吉野さんも竹林の中を抜けて小学校に通っていたそうです。工業地域への変化とともに、竹が建材として使われなくなっただけでなく、羽黒の竹林は次第に姿を消していきま



吉野 淳夫さん
犬山ビール株式会社
代表取締役社長

山町他四ヶ村合併促進協議会」が、翌年の2月に設置されます。そして、各町村において臨時議会が招集され、1町4村とも全会一致で可決し、昭和29年4月1日、犬山市が誕生しました。当時の人口は3万5千995人。市名を「犬山」としたのは、室町時代より全国に広く知られた名称であることに加え、住民の意向もあつてのことだったといえます。

4月2日には第1回犬山市議会が開かれます。合併直後ということで、各町村の議員がそのまま市議会議員となり、議員数は90人を数えました。犬山ビール株式会社代表取締役社長の吉野淳夫さんは「当時、私は14歳でした。母が羽黒村の議員をしていて、引き継ぐ形で犬山市議会議員になりました。市議会議員を名譽に思うとともに、立場や責任もあつてのことでしょう、私たち兄弟に対してしつかりするようお願いさせていたことを覚えていますが」と当時の思い出を話してくれました。

Event Schedule

六十周年記念 イベント開催!

市制60周年記念式典
【日時】4月20日(日) 午前10時より
【場所】犬山市民文化会館大ホール

羽黒中央公園 多目的スポーツ広場 オープニングセレモニー&イベント
【日時】4月20日(日) 午後
【場所】羽黒中央公園 多目的スポーツ広場

ろくまる写真展

～いまむかし～
【日時】4月18日(金)～20日(日)
【場所】南部公民館展示室1
※写真展は市内各地を巡回予定

上記のほか、市制60周年実行委員会「ろくまるスタッフ」企画の事業や市民提案事業などが開催されます

問い合わせ 犬山市役所秘書企画課
☎0568-44-0312



4 昭和29年5月16日、犬山北小学校講堂にて市制祝賀会が開かれた 5 犬山北小学校講堂は議場としても使用され、第1回犬山市議会も行われた



初代市長には真野幸太郎氏を選ばれ、4月29日に就任します。広報「いぬやま」の創刊号（昭和29年7月10日号）の1面には、真野市長が目指す「愛情ある明るい市政」と題した記事が掲載されました。5月16日には犬山市制祝賀会が盛大に開かれました。この日から3日間、市制施行を祝う行事が市内各地で行われたようです。犬山市内の小中学校で長らく教職に就いていた日比野正治さんが保存する当時のPTA新聞に、祝賀行事の様子が書いた児童生徒の作文が載っています。そこには「祝犬山市」の人文字を作ったり、犬山市誕生を祝して全校集会で万歳三唱や旗行列をしたりしたと綴られています。また、御神輿や子供獅子が出て、仮装行列も行われたとあります。



日比野 正治さん
教職を退官後は、犬山市文化史料館の初代専任館長を務めたほか、「犬山市史」の編纂にも携わった。「健康な歴史観光都市を目指して」と話す

日比野さんによれば、昭和30年代以降の高度経済成長期に犬山市も発展を遂げ、人口も増加しましたが、周辺の市町に比べて緩やかなものだったといえます。

工業や観光の振興について簡単に触れましたが、犬山市のまちづくりは「犬山市総合計画」に沿って推進されています。市の将来像を掲げ、市政の根幹をなすもので、昭和48年度に第1次総合計画が策定されました。現在は第5次総合計画が進められており、さらに市制60周年に当たる26年度を「健康市民づくり元年」と位置づけ、健康をテーマとした事業なども展開していくとしています。